



一般社団法人 日中国際交流協会  
国際医療コーディネート事業部

〒112-0015 東京都文京区目白台3-4-11 GFビル3F  
TEL:03-5319-2688 FAX:03-5976-1414  
<http://www.jcip.or.jp/>

## － 国際医療コーディネーター事業 －

### ご挨拶

今日、日本は世界第3位のGDPを持つ経済体であり、諸外国との経済貿易協力と並行し科学技術や医療・人文・文化面の交流も盛んで、日本の先端医療を評価し、その受診・検診を求め、来日を希望される方々が数多く居られます。

◆一般社団法人日中国際交流協会は2007年に発足し、その後の国際交流の中で、日本の高度先端医療を受診したいという多くの要望に応じて、適宜に医療機関を紹介して参りました。更に、今後日本の医療機関で検査並びに治療を希望される海外のお客様が増加する事に鑑み、今般(2017年1月17日)に医療滞在ビザの身元保証機関(経産省ヘルスケア産業課認可・登録の医療コーディネーター)としての認定を受け、海外の方々に向けて幅広く医療サービスを提供する業務を開始致しました。主に国立の提携先医療機関を推薦し、渡航の手配、医療滞在、ビザ取得をサポート、更に、送迎サービスや医療通訳等を必要に応じて手配し、日本の医療機関での治療や検査が順調に進められるように医療コーディネーターとしてのサービスを提供させていただきます。

◆当協会の運営役員として、東京大学医学部で医学博士号を取得し、現在日本血管外科学会名誉会員・日本脈管学会前理事長である重松宏氏が顧問職を務め、又社団法人全日本病院協会元事務局長の浦川新氏が担当理事に就任され、日本のトップ医療機関との緊密な連携の下、日本の先端医療を求める外国人の皆様方に最適な先端医療、適切な健康診断等を提供して参ります。

◆人生最大の試練である病苦を克服することは人類共通の課題であり、健康の確保と適切な医療の受診は諸外国の方々も我々日本人も共に協力・解決するべき人道的・社会的問題であり、世界の人々に国境を越えた先進的医療受診の提供を支援する意義ある事業を誠心誠意推し進めて参る所存です。

一般社団法人 日中国際交流協会  
理事長 長谷川隆淑

### 【構成】

〔担当組織〕 一般社団法人日中国際交流協会 「国際医療コーディネーター事業部」  
担当 … 浦川新理事、長谷川文彦理事  
顧問アドバイザー … 医学博士 重松宏  
その他 … 協会事務局主任 長谷川仁彦、副主任 山下貴司 及び協会関係メンバー

〔医療VISA〕 経済産業省ヘルスケア産業課主管  
身元保証機関の登録 No.B-046に基づき、(一社)日中国際交流協会により、招聘状と身分保証書の発行を行う。

◆連携協力の契約医療機関：

- 1) 国立がん研究センター東病院(柏市)
- 2) 国立国際医療研究センター病院(東京都新宿区)
- 3) 国立成育医療研究センター病院(東京都世田谷区)

### 来日後、先端医療を受診いただく手順：

日本での医療受診を希望される方の募集は、当協会の国際医療コーディネート事業部及び委託先を通じて要望を募り、日本で受診される意思や要望確認等、下記の作業を行います。

- \* 地元医療機関の診断結果(カルテなどの医療情報)を来日受診希望者から入手し、当協会へ参考情報として提供していただきます。
- \* 当協会は日本の受入医療機関と入手した医療情報(画像を含め)を精査し、その結果を参考に日本での医療診療の可否について判断する。
- \* 受入医療機関は診療情報(画像等)を精査し、日本側医療の適応の可否について判断する。
- \* 受入医療機関よりの適応可否の連絡を受け、当協会からその結果の連絡を行う。受入可能な場合は、予定される診療内容と概算見積を受診希望者へ連絡する。
- \* 当協会又は委託関係先が受診希望者へ診療内容と概算費用を説明し、予め来日して受診される意思の確認を行う。
- \* 来日し治療する意思を書面で確認された上で、概算見積の治療費と必要な旅行滞在の経費全額を当協会へ前払金として予納していただく。
- \* 当協会は医療ビザ取得に必要な公的招聘状と身元保証状を発行する。
- \* 当協会は来日の日程調整・受診患者の宿泊施設等確保・医療通訳等の手配を行う。
- \* 治療終了後、協会は概算預かり金を以って全請求金額を清算し、余剰金の返納、或いは追徴金の計算を含め、最終的に会計決済と報告を行う。
- \* 病状により、再度日本での診療が必要な場合も同様の医療サービスを継続して提供する。但し、別途見積にて発生した費用については、負担をお願いする

## － 国立がん研究センター東病院(千葉県柏市)の陽子線治療の概要 －

今世紀、日本人の二人に一人が、がんに罹ると云われ、人類が最終的に対応を迫られる疾患と思われ、がん検診と治療が医療業界最大の研究課題となっています。

陽子線治療は、放射線の一種である水素の原子核である陽子を加速した陽子線の「殺細胞効果」を集中的に応用する治療方法です。陽子線は加速器(サイクロン)で作られ、ビーム輸送装置で治療室まで運ばれ、回転ガントリーで360度どの角度からも照射が可能で照射方向が調整され、治療室の患者へ照射されます。

◇その治療効果をより高める特技として：

- \*陽子線は「止まるところでエネルギーがピークになる」ブラックピークという優れた物理的特性を有しています。そのため、病巣の位置(深さ)に陽子線のエネルギーを調整・コントロールすることで、がんピンポイントで照射ができ、周囲の正常組織へのダメージを最少にできます。
- \*陽子線は照射方法にペンシル状の細いビームを用いる「スキャニング法」と幅広いビームを用いる「拡散体法」があります。「スキャニング法」では、がんの形状に沿ったより複雑で集中性が高い照射が可能になります。国立がん研究センター東病院では両方の照射法が可能です。
- \*がんの周辺には正常な細胞組織があり陽子線の照射で影響を受けます。照射によるダメージを回復する能力はがん細胞より正常細胞の方が各段位に優れるため、正常細胞の回復を待ちながら照射を数回に分ける分割照射法で効果を上げています。
- \*肺・肝臓などの臓器にできるがんは呼吸や消化の影響でその位置が動いてしまいます。そのため、呼吸の動きに合わせて照射をする呼吸同期法を用いて病巣の位置を的確に捉える治療を行っています。そのために体を固定する治具(患者各個人用)を特別に製作し呼吸をモニターする道具も装備しています。

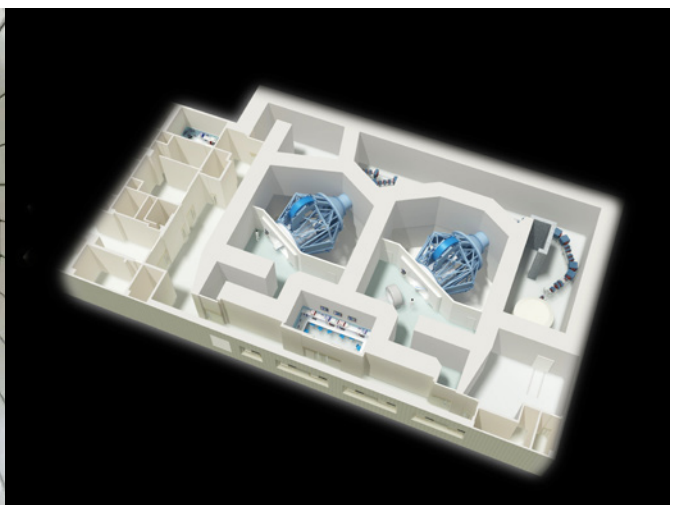
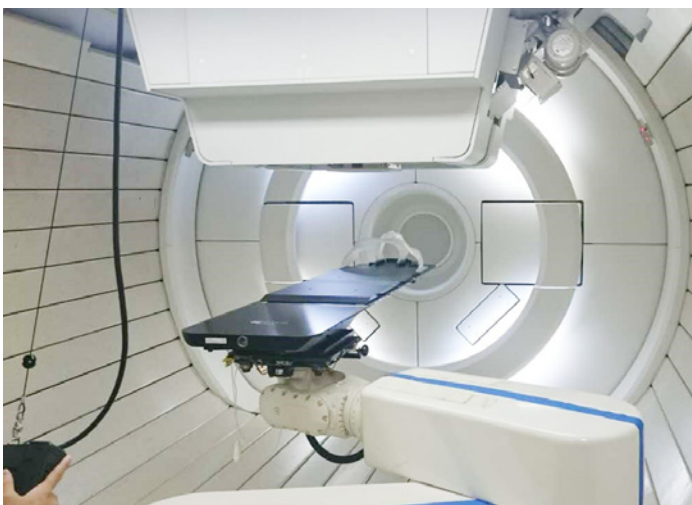
がん治療は現在1)外科手術 2)化学療法 3)放射線治療の3つが主流ですが、陽子線治療は身体への負担が少なく、外来通院による治療が可能で、手術が難しい高齢者でも治療が可能です。また、臓器や機能の温存が可能のため、治療後の生活の質が高く保たれるなど高く評価されています。

しかし、すべてのがん患者に適応可能ではありません。脳腫瘍・頭頸部がん・食管がん・肺がん・肝臓がん・前立腺がん・小児がん・骨軟部腫瘍、肺、肝臓またはリンパ節への転移性がんなどに適応させていただきます。





(国立がん研究センター 外観)



(サイクロン・陽子線照射装置 内部と構造)

## － 国立国際医療研究センター病院(東京都新宿区)概要 －

国立国際医療研究センター病院の前身である国立東京第一病院は、我が国の人間ドック発祥の地であるとされ、長い経験で積み上げた検診(がん疾患)ノウハウが国内外で高く評価・信頼されています。

特に細部に至るまで精密な診断が可能な最新鋭(2年前の新設)のハイクオリティな検診機器及び同病院内の各分野(脳・心臓・膵臓・肝臓・胃腸・乳がん・子宮体部等の各疾患)の専門診療部門との緊密な連携が検診効果を高め、更に病気発見後の最速・最適な対応診療がスムーズに提供されています。

推奨する特色点として、消化器官の内視鏡検査・血液検査・尿検査・胸部X線とCT検査・超音波検査等の日帰りまたは宿泊基本コースとは別途に、オプションメニューとして下記ドック部門が設けられております。

脳ドック・心臓ドック・肺ドック・膵臓ドック・肝臓ドック・大腸ドック・骨ドック等の特定部位の検査、更にPET検査・乳がん・子宮がん・内臓脂肪・アレルギーに特定した検診を行っています。

脳ドック・心臓ドック・肺ドック・膵臓ドック・肝臓ドック・大腸ドック・骨ドック等の特定部位の検査、更にPET検査・乳がん・子宮がん・内臓脂肪・アレルギーに特定した検診を行っています。



(国立国際医療研究センター 外観)

### ◇ セカンド・オピニオン ◇

患者の生死に係る病気の診断を最初の一ヶ所以外に、別な医療機関の設備機能や医師の検診能力に託して、新たに診断を求める必然的要望にお応えする提案です。従来の病院や医師の診断や治療法について、患者が別の医療機関や医師の意見を求めることは必



然的に既存の病院や医師の能力評価につながるため、保守的な病院や医師の抵抗が強く、全体的にはまだまだ普及は不十分であります。しかし、日本の医療業界では意味のあるセカンド・オピニオンを行うため最初の医師が検査データや診断を明らかにする医療の情報公開が求められており、当国立国際医療研究センター病院はじめ国立病院機構の各病院等が率先して熱心に取り組む所が増えています。当国立国際医療研究センター病院の部位特定ドック部門を窓口として、様々な病状のセカンド・オピニオンとしての検診サービスを提供いたします。尚、特異な疾患の場合は、必要に応じ、関連の専門の医療機関や医師をご紹介します、最先端の専門医療部門での別途検診を斡旋いたします。

## － 国立成育医療研究センター(東京都世田谷区)概要 －

国立成育医療研究センター病院(National Center for Child Health and Development Hospital)は日本の厚生労働省所管の国立研究開発法人国立高度専門医療研究ナショナルセンターであり、2010年4月「高度専門医療に関する研究等を行う独立行政法人に関する法律」に基づき、厚生労働省の所管施設であった旧国立成育医療センターが組織的に移行する形で発足しました。

胎児から始まって、新生児、小児、思春期を経て次世代を育成する成人世代、すなわちリプロダクションサイクルに生じる疾患に対する医療と研究を推進する為に設立されました。

病院と研究所とが一体となって、難病に悩む患者や家族に対し、安全性と有効性が十分に検証された高度先駆的医療の提供を行うこと、同時に、小児救急医療、周産期医療を含めた成育医療全般に関しては、チーム医療、継続的医療に配慮したモデルを確立し、これらを全国的に展開することを目的としています。

周産期母子医療センターおよび小児救命救急センターの認定施設を備えています。



(国立成育医療研究センター 外観)

－ 国立成育医療研究センター 診療のご案内 －

総合診療部：小児期・思春期診療科 救急診療科 在宅診療科 禁煙外来

器官病態系内科部：消化器科 肝臓内科 循環器科 呼吸器科 神経内科  
腎臓・リウマチ・膠原病科

生体防御系内科部：免疫科 内分泌・代謝科 アレルギー科 感染症科  
遺伝診療科 小児がんセンター血液腫瘍科 固形腫瘍科 脳神経腫瘍科  
移植・細胞治療科 血液内科 こどもサポートチーム(緩和ケアチーム)

臓器・運動器病態外科部：小児外科 脳神経外科 心臓血管外科 整形外科  
泌尿器科 リハビリテーション科 発達評価センター

感覚器・形態外科部：形成外科 耳鼻咽喉科 眼科 皮膚科 歯科

こころの診療部：乳幼児メンタルヘルス診療科 児童期メンタルヘルス診療科  
思春期メンタルヘルス診療科

手術・集中治療部：集中治療科 麻酔科・疼痛管理科・成人麻酔科

周産期・母性診療センター：産科 胎児診療科 新生児科 産科麻酔科  
不育診療科 妊娠免疫科 母性内科 不妊診療科 婦人科

臓器移植センター：放射線診療部 放射線診断科 放射線治療科 臨床検査部  
生理検査室 検体検査室 高度先進検査室 細菌検査 採血室輸血検査室

病理診断部医療連携・患者支援センター：感染防御対策室 医療安全管理室  
「もみじの家」事業部 教育研修部 栄養管理部 MEセンター 薬剤部看護部  
運営部 総務部 人事部 企画経営部 財務経理部

－ 以上 －